

Syllabus Id	sy1-052015
Subject Id	sub-0520030
作成年月日	50117
授業科目名	哲学 Philosophy
担当教員名	野澤正信
対象クラス	全学科5年生
単位数	2高専単位
必修/選択	必修
開講時期	通年
授業区分	人文・社会科学・語学等
授業形態	講義
実施場所	機械工学科棟 4F M5HR、共通棟 3FE5HR、電子制御棟 2FD5HR、高学年棟 2FS5HR、4FC5HR

### 授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)

哲学とは愛知すなわち知を愛し求めるといふ意味での知の探究である。本教科では見解が分かれる現代の諸問題について判断根拠となる情報を適確に集め、論理的に議論を構築する訓練を行う。目的は理性への信頼に基づくよりよい知を探究する態度の涵養にある。哲学(愛知)は古代ギリシアに生まれ、近代西欧において科学を発生させて現代の科学技術文明の基礎となったが、科学技術の発達は多くの問題を解決する一方で多くの難問を生み出した。それら意見が分かれる諸問題について理性的に対処し、よりよい判断を導く姿勢と方法を修得することにより科学技術の平和で安全な利用をめざす。また異質な知の対比から新たな知見を生む創造性を養う訓練でもある。

### 準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)

世界史、特に古代ギリシア、古代中国、近代西洋の知識

学習・教育目標	Weight	目標	
	◎	A	工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
	B	社会要請に応えられる工学基礎学力の養成	
	C	工学専門知識の創造的活用能力の養成	
	D	国際的な受信・発信能力の養成	
	E	産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成	
C:工学的な解析・分析力、及びそれらを創造的に統合する能力			

### 学習・教育目標の達成度検査

1. 該当する学習・教育目標についての達成度検査を、年度内数回の目標達成度試験(小論)を持つて行う。
2. プログラム教科目の修得と、目標達成度試験(小論)の合格を持って当該する学習・教育目標の達成とする。
3. 目標達成度試験の実施要領は別に定める。

### 授業目標

1. プログラム目標に合致した学科目標：  
現代社会の諸問題について多面的に考察し、判断根拠となる情報を適確に集め、強い根拠に基づく説得力のある議論を構築できること
2. 学科目標に合致した授業目標
  - (1) 与えられた漠然とした問題を自ら考えて解決可能な明確な形に定義しなおす能力をもつこと。
  - (2) 一つの問題を異なる視点から評価し判断する多面的に考察できること。
  - (3) 適確な調査によって問題解決に必要な資料を集められること。
  - (4) 収集した情報を活用して論理的に議論やレポートが構成できること。

### 授業計画(プログラム授業は原則としてプログラム教員が自由に参観できます。)

回	メインテーマ	サブテーマ	参観
第1回	前期オリエンテーション	プログラムの学習・教育目標、授業概要・目標、スケジュール、評価方法と基準、等の説明	
第2回		ディベートとは何か(ソクラテス・デカルト・ヴィーコの方法の説明)	
第3回		ディベートの方法の解説と前半の分担決定	
第4回		1 「原発増設の是非」概要説明(エネルギーと環境の問題)	
第5回		「原発増設の是非」ディベート	
第6回		2 「消費税率アップの是非」概要説明(市民社会と税制の問題)	
第7回		「消費税率アップの是非」ディベート	
第8回		3 「肉食の是非」概要説明(科学技術と健康の問題)	
第9回		「肉食の是非」ディベート	
第10回		4 「少年犯罪とメディア」概要説明(情報社会の問題)	
第11回		「少年犯罪とメディア」ディベート	
第12回		5 「裁判への市民参加の是非」概要説明(民主制と司法の問題)	
第13回		「裁判への市民参加の是非」ディベート	
第14回		6 「安楽死の是非」問題の概要説明(自己決定権の問題)	
第15回		「安楽死の是非」ディベート	

第16回	後期オリエンテーション	ディベートの方法の再確認と後期分の分担決定
第17回		7 「ゆとりの教育の是非」概要説明（デューイの教育哲学の紹介）
第18回		「ゆとりの教育の是非」ディベート
第19回		8 「自由主義の是非」概要説明（自由主義と共同体主義の紹介）
第20回		「自由主義の是非」ディベート
第21回		9 「宗教で幸福になれるか」概要説明（デュルケム説などの紹介）
第22回		「宗教で幸福になれるか」ディベート
第23回		10 「プラス思考の是非」概要説明（ストア哲学、デカルト説の紹介）
第24回		「プラス思考の是非」ディベート
第25回		11 「金で幸福になれるか」概要説明（ベンサム功利主義紹介）
第26回		「金で幸福になれるか」ディベート
第27回		12 「快樂主義で幸福になれるか」概要説明（ソクラテス説の紹介）
第28回		「快樂主義で幸福になれるか」ディベート
第29回		13 「専業主婦の是非」概要説明（男女共同参画問題の紹介）
第30回		「専業主婦の是非」ディベート

### 課題

レポート： ディベートで扱う問題についての賛否両論、および3000字小論

提出期限： 賛否両論はディベートの2週間後、3000字小論は12月31日

提出場所： 授業終了後の教室、教員室（管理棟3F）、3000字小論のみメール可 nozawa@numazu-ct.ac.jp

オフィスアワー： 教員室（管理棟3F）において金曜午後1時から4時まででは比較的対応できる

### 評価方法と基準

#### 評価方法：

- (1) 曖昧な問題を明確に定義できるかどうかを
- (2) ディベートでの発言および賛否両論の作成で
- (3) ディベート聴衆となる学生の多数決と賛否両論の評価基準(別にネットで公表する)によって判定し
- (4) 成績の15%に反映させる。

- (1) 一つの問題を異なる視点から評価し判断する多面的に考察できるかどうかを
- (2) 賛否両論の作成で
- (3) 賛否両論の評価基準(別にネットで公表する)によって判定し
- (4) 成績の15%に反映させる。

- (1) 適確な調査によって問題解決に必要な資料を集められるかどうかを
- (2) ディベートでの発言および賛否両論の作成で
- (3) ディベート聴衆となる学生の多数決と賛否両論の評価基準(別にネットで公表する)によって判定し
- (4) 成績の15%に反映させる。

- (1) 収集した情報を活用して論理的に議論やレポートが構成できるかどうかを
- (2) ディベートでの発言および賛否両論の作成および3000字小論で
- (3) ディベート聴衆学生の多数決と賛否両論のと小論の評価基準(別にネットで公表する)によって判定し
- (4) 成績の15%に反映させる。

#### 評価基準：

賛否両論レポート 60%、 3000字小論 20%、授業態度(理解度テスト等) 20%、

教科書等	使用しない。必要に応じてプリントを配布する。
先修科目	歴史
関連サイトのURL	<a href="http://dla.ippan.numazu-ct.ac.jp/nozawa/nozawahp.htm">http://dla.ippan.numazu-ct.ac.jp/nozawa/nozawahp.htm</a> （沼津高専・教養科・哲学）
授業アンケートへの対応	課題提出の負担が大きすぎるとの指摘があるので負担の削減に努力する
備考	1. 試験や課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2. 授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。